

## 藤家原子力委員長の海外出張報告について

平成15年7月1日  
原子力委員会事務局

### 1. 目的

オーストリア共和国ウィーンにて開催された IAEA 国際会議核燃料サイクル及び原子力発電のための革新技术に関する会議に出席した。また、フランス共和国パリにて行われる、高速炉開発に関する会議に出席し、各国原子力政策担当者と意見交換を行った。

### 2. 出張者及び日程

(1) 出張者：藤家委員長、事務局 横田主査

(2) 日程：平成15年6月21日(日)～26日(木)

6/21(土) 日本発 ウィーン着

6/23(月) IAEA 核燃料サイクル及び原子力発電のための革新技术に関する会議

6/24(火) ウィーン発 パリ着

6/25(水) 高速炉開発に関する会議

アメリカ合衆国 アルゴンヌ研究所グランダー部長  
フランス 原子力庁ブシャル局長  
ベルナール副本部長 他

パリ 発

6/26(木) 成田空港 着

### 3. 結果概要

(1) IAEA 核燃料サイクル及び原子力発電のための革新技术に関する会議

オーストリア共和国ウィーンにおいて開催された、IAEA が主催する核燃料サイクル及び原子力発電のための革新技术に関する会議に出席した。

国際的に次世代炉の開発に向けた動きが活発になってきており、この会議においては、IAEA 加盟国各国、及び国際的な機関による開発の状況の紹介、議論が行われた。

特に第一日目の23日には日本の藤家原子力委員長、OECD/NEA 事務局長、国際科学技術センター事務局長、世界原子力協会(WNA)会長、韓国 KAERI 理事長、ロシアクルチャトフ研究所長、インドの原子力委員長など各国原子力界、国際機関の主要なメンバーが発表を行った。Generation-IV、INPRO の動きについても様々な発表が行われた。

藤家原子力委員長より、20世紀の大量消費、大量廃棄社会から脱却し、21世紀には地球環境のためにもリサイクル社会が必要であり、原子力も効率性、核拡散抵抗性の高めた先進的な核燃料サイクルを目指すべきこと、そのための国際協力に力を入れており、また、MOX 利用、六ヶ所村の再処理、廃棄物高レベル処分等、日本の原子力開発利用の現状を紹介するとともに、原研とサイクル機構の統合の現状、もんじゅの状況等を説明し、もんじゅ、HTTR を国際的に開かれた施設としたいとのスピーチを行った。

また、セッション「革新に対する必要性、展望及び挑戦」については、藤家原子力委員長及びエチャバリ OECD/NEA 事務局長が共同議長となり、OECD/NEA、世界エネルギー会議、IAEA、電力コスト・グループ(EUCG)などが発表を行った。最後に、藤家原子力委員長より、原子力の重要な役割、核燃料サイクル、革新技術開発に関する国際協力の必要性を強調し、議長としてセッションを総括した。

## (2) 高速炉開発に関する会議

フランス共和国パリにおいて開催された、高速炉開発に関する会議に出席した。

日米仏より、各国の高速炉開発状況について説明を行った後、高速増殖原型炉「もんじゅ」の現状や、「もんじゅ」における今後の国際協力の予定について説明した。

ガス高速炉及び核燃料サイクルについて、フランス原子力庁(CEA)及び核燃料サイクル開発機構(JNC)の検討状況について説明を行い、意見交換を行った。

もんじゅで高速炉サイクルについての国際的な共同研究開発プログラムの実施に関する共同声明について、検討することにした。

CEA及びJNCより、高速炉データベースの構築について説明を行った。アメリカ合衆国アルゴンヌ研究所(ANL)より、有益なデータを中心にデータベースを構築すべきとの意見があり、十分な検討を行い、共通認識をもつことで合意した。

米国ニューオーリンズで今年11月に開催されるGLOBAL会議に引き続いて、11月20日に高速炉の国際ワークショップを行う提案があった。藤家委員長より韓国、中国にも声をかけ、かつ若い世代にも魅力的なシンポジウムとすることを検討すべきとの指摘があった。